

キャラクター名
切通 充悠

プレイヤー名

シンドローム	オルクス		ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	UGNエージェント
	オルクス					
オプション			年齢	31	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	自傷	初期侵食率	32	%
出自	兄弟	経験	UGNへの忠誠	邂逅	借り	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	4	0	0			4	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	
コネ: UGN幹部	
モバイルPC	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費	
超血統	P 同情	N 悔悟			
待雪 影虎	P 尽力	N 憐憫			
"兄弟"	P 幸福感	N 悔悟			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			

最大財産P: 10 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
支配の因子	7	6	セットアップ	視界	シ-ン(選択)	自動成功	ピュア	
効果: そのラウンド間、対象が行う攻撃の攻撃力を-[Lv*5](最低0)する。/1シナリオ1回								
絶望の領域	3	4	セットアップ	視界	シ-ン(選択)	自動成功	ピュア	
効果: そのラウンドの間、対象が行うあらゆる判定のダイスを-[Lv*2]個する。このエフェクトは1シナリオに1回まで使用できる。								
奈落の法則	1	4	セットアップ	至近	範囲	自動成功	-	
効果: そのラウンド間、対象が行うあらゆる判定のC値を+1/1シナリオLv回								
スモールワールド	3	7	オート	視界	単体	自動成功	80%	
効果: 対象が攻撃の判定を行った直後に使用。その判定の達成値を-[Lv*5](最低1)。/1シナリオ1回								
領域の盾	2	4	オート	至近	単体	自動成功	-	
効果: ダメージロールの直前に使用、対象はカバリングを行う(対象は行動済みかどうかを問わない)。どうかバリングを行うかは対象が決定。/1シーンLv回								
領域の守護者	1	2	オート	至近	自身	自動成功	-	
効果: 《領域の盾》の射程を視界に変更/1シーン1回								
世界樹の葉	1	5	Xジャー	至近	単体	自動成功	-	
効果: RC/対象の戦闘不能を回復し、HPを1まで回復・侵蝕率5点上昇(また、非オーヴァードはオーヴァードに覚醒する可能性がある)。/1シナリオLv回								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

きづし みちか

軟派で放浪癖が強く、どこかしら掴みどころのないような存在感を持つ男。生活態度がずぼらだが、割合健康そうに活動している。明朗快活な性格であり、多弁。寡黙な人が一を口にしたなら十を言葉にして返す程喧しくもなれる。尤もその饒舌さは自身の真意、或いはネガティブな側面に触れさせまいとする自尊心からきているものであり、何某かの流れで静かになってしまえば、とことん口数は減ってしまう。ことに子供好きであり、形振り構わず可愛がってしまうこともしばしば。ただただ彼から向ける一方的な愛情でもあるが、困ったときは良き相談者として耳を傾けることもあるだろう。色情魔。なんだかんだあった現在は、一人の男性と関わりを持つのみになっている。

--

愛する弟に触れんと至近距離を取った際に、彼を非可逆圧縮——「因子」レベルまでに押し固める形でその命を犠牲にし、その因子を吸収、或いは元々その身に備わっていた因子と共鳴した為、「シンドローム」として励起。オルクスの才能を発現させる。直後暴発的に拡散した力——領域の因子は周辺一帯を覆い尽くし、家族全員を"事実上"殺害、その後家出するに至った。事故が起きた十数年後に、ジャームとして未だ尚そこに存在していた父母を完全に抹消する形で決着。それ以前も、それ以降も、一度も家には戻っていない。

--

始どの場合、仕事外の場所、特に自室に於いて、自身の生命活動を断絶させるレベルの外傷による自殺行為を取るか、また自身に残存し続ける精神的苦痛を与えることで衝動を抑えている。"自身の理性がまだ一般常識のただ中にある頃"に内包した苦痛の自浄の為か、はたまたオーヴァードとして発現したことによる、本能的な衝動による苦痛の自浄の為かは不明瞭であり、本人曰く「どちらの為でもある」として、継続的に自傷活動を行うことで安定を図っていた。